

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 5

2014 No.716

3 はじめの言葉

4 主観的評価こそが

情報処理の第一歩／本質である

田原文夫

情報処理の主体はコンピュータでなく、人間である。何度も指摘してきたポイントである。企業をはじめとするいかなる組織活動であっても、人が中核的存在として機能しなくてはならない。コンピュータ導入の黎明期、省力化／合理化を出発点とするものだと思いきや、違いは我が国のデジタル化(＝コンピュータ化)は、昨今になって、この基本ポイント、中核的存在を否定する形で、その誤った側面を見せつけている。かつての高度成長期にあって、日本の企業等組織は極端に人員肥大化の反省から、人員整理を伴ったビジネス再編成(リストラ)を指向せざるを得なかったのは事実だが、そのタイミングが低成長／安定成長期での安直な人員削減へと流れてしまったことから、ビジネス成長そのものを、なお一層疲弊させてしまう元凶として作用してきている。今、そのツケが様々な事業現場で表面化しているようだ。具体的には、入手した情報に主観的評価／判断を下せない、すなわち人間としての情報処理ができない関係者が排出されている。つまり、与えられたデジタル化情報を無批判かつストレートに受け入れるだけの関係者が増えているのだ。これは、まさに「コンピュータ神話時代の再現」だとしか言いようがない。

1 1 情報社会を考える その4 4

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

悪しき伝統

WindowsXP のサポートが終了した。一喜一憂という言葉があるが、果たして、「これほど安定した OS はない」と喜んで導入されたかどうかは別にして、XP が多くのユーザーに支持され、活用されてきたことは間違いない。そのサポート作業も安定供給されてきた。そのメンテナンスサポートが打ち切られた。

幅広く活用されてきた分、一憂どころか大いに憂いているユーザーも多いだろう。

OSに限らず、マイクロソフト(MS)社の提供するプロダクトに関しては大いに悩まされてきている。たとえば、オフィスシリーズの EXCEL については、そのマクロ命令をベースにカタログ化することで開発してきたアプリケーションプログラムが、バージョンアップに伴い、ニューバージョン下の EXCEL では稼働しないという憂き目にあわせられ、大いに悩まされてきたなどに代表される。

1 3 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-B I M構築が必要か その 39

水田 浩

オープンガバメント OG 5 工業化社会をデジタル化する

社会全体が工業社会から情報社会に移る第一段階ではICT（情報通信技術）が個々の組織の効率化のために、それぞれが独立して導入され、第二段階では工業社会の組織はそのままにして組織間をICTで統合してゆく。社会全体を情報社会に変える準備段階である。第一段階での最初のデジタル化運動が 1994 年から世界規模で行われたCALS運動であった。そして次に行われたのが電子政府運動であった。

1 9 連載 アーキテクチャ論 (37)

ArchiMate2.0 の適用

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本稿では、オープングループのアーキテクチャ記述言語である Archimate[1][2]（アーキメイト）を用いてアーキテクチャ原則(プリンシプル)を分析する手法について紹介する。分析する対象は Firesmith らによる MFESA(Method Framework for Engineering System Architecture)である。

■MFESA の概要

Firesmithらは、システムアーキテクチャを開発するためのメソッドフレームワーク MFESAを提案している[Fire08][Fire09]。

MFESAによるアーキテクチャの開発手順は以下のようである。

- ① アーキテクチャ計画を策定して投入資源を配分する
- ② アーキテクチャドライバを識別する
- ③ もっとも重要なアーキテクチャモデルの第一版を作成する
- ④ アーキテクチャ要素の再利用についての機会を識別する

2 6 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 5 5 回 知性ロボットが

文章を作成する時代が到来

根本忠明

文章は、「人がコピペする時代」から「ロボットが自動作成する時代」へと変わりつつある。ツイッター、新聞記事、科学論文に到るまで、コンピュータ（ロボット）が文章を作成する話題が、マスコミやウェブ上で増えている。クイズ番組やチェス・将棋などでは、コンピュータの知性は、人間の知性を凌駕し始めている。今回は、この進化しつつある知性ロボットの現状について、紹介することにしたい。

2 9 続インテリジェンスへのいざない 52

何が事実情報で

何が主観情報かを識別する

今井 武

第二次コンピュータ神話時代かと思わせるような雰囲気になっている気配がある。ピッ

グデータ分析論である。あたかもコンピュータが分析／加工すると、あたかも有効な二次情報が生成されるがごときだ空気だが、それは甘い考え方だというより、非常に危険である。

3 2 一味違うウェブ検索

第四十三話 資料の読み方・探し方（1）

ぐうのうえぶへい

本連載は、情報発信のプロを目指す人を対象にしている。今回は、調べる資料の読み方・探し方の原点に立ち戻り、その基本プロセスを確認したい。それは、①資料に書かれている内容を正しく読み取る、②資料に書かれていない内容を調べる、③資料から意外性のある情報を発見しプラスαを加味した内容に仕立てる、である。

3 4 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまちヒロ

☆☆

オンデマンド出版のご案内

本誌連載中の山本修一郎氏「アーキテクチャ論」が、オンデマンド出版されております。ご活用下さい。
詳しくは、WebCR ホームページをご覧ください。

「アーキテクチャ論」

山本修一郎 著

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

☆☆

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円＋税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛セキュリティ心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2014年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円＋税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円＋税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム乗組の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな乗組員
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍乗組所帯と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開港フェルベックとバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本乗組員日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 乗組員の一日、訓練、乗組の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 乗組の二 安室乗組と北米センター乗組

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp